

音楽

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	<p>授業規律について少しずつ理解し、自らを律することを覚えてきた生徒が増えた。しかし一方で、未だに落ち着いて授業を受けられない生徒もまだ少数いる状態である。個人の作業(ワークシートの個人記述はど)は出来るものの、話し合い活動やグループ活動集団での考察、考えの共有などが苦手な生徒が多い。</p> <p>歌唱活動では、響きのある声作りの基本が身に付いた。器楽活動では、アルトリコーダーの基本的な奏法について理解し、簡単な旋律を演奏することが出来た。鑑賞活動では、詩と音楽の関わり、音高や強弱の変化に着目し、協奏曲や歌曲に触れ、生徒一人ひとりの興味関心を高まった。</p>	<p>視覚的効果のある図を用い、発声指導を継続的に行うことができた。授業の導入で行っている発声練習など、基礎基本を徹底したことが、功を奏したようである。より一層の継続と楽曲への応用に生かしていきたい。</p> <p>課題としては、より多くの生徒の考えを表出できるような「発問の工夫」「教材や設問の吟味」が必要である。グループ学習の際の学習の進め方の工夫が課題である。鑑賞では、音楽の諸要素を限定して発問する(例.音の高さ、音の重なり、など)ことで、生徒の興味関心を高められた。より諸外国の様々な音楽や日本の伝統音楽を多く取り上げ、生徒の興味関心を高めることが課題である。</p>	<p>課題となっている「発問の工夫」では、より具体的な発問を繰り返し、少しずつ学習内容を深められるよう、スモールステップな指導を心がけていく。視覚的な図を用いた教材に効果が見られた為、より生徒の理解を深め、表現につながるような板書なども工夫していく。また、グループ学習の進め方や作業の工程を明確に指示し、生徒の自己認識や自ら学ぶ活動を展開していけるよう、テンポの良い授業展開を再構築したい。創作や日本の伝統音楽の教材研究が深まっていないため、教材の開発を行っていきたい。三学年を通じ系統性のある指導評価計画を検討する。</p>
2年	<p>授業の展開に食いついてくる子が多くなり、発言も多くなってきた。一方で、自らの考えや思いを単語や雰囲気では表現は出来るが、文章にして伝えるということがまだまだ得意な子が多い傾向にある。</p> <p>歌唱活動では、自らの声で表現することに抵抗がなくなってきたようで、気持ちの良く歌うことが出来てきた。また、歌詞の内容や曲想を味わう力が身に付いた。創作活動では、言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して短い旋律を作ることができた。しかし、表現したいイメージを記譜する作業に時間がかかった。鑑賞では形式やテキストに注目して、オーケストラの楽曲を味わうことが出来た。</p>	<p>ワークシートの内容や発問を工夫し、歌詞の内容や曲想を味わう力が身に付いた。よりグループ活動の仕方を工夫し、曲にふさわしい表現を磨かせたい。</p> <p>課題としては、よりワークシートやグループ学習の進め方を明確(シンプル)にすることで、生徒の活動時間をより多く捻出したい。また、表現したいイメージを文章にすることが苦手な生徒のために、より発問の工夫が必要である。具体的には、ワークシートを工夫するほか、文章の話形や音楽の要素などの入ったキーワードカードなどを活用したい。また、諸外国の音楽や我が国の伝統音楽により多く触れさせることによって、音楽の多様性について知ってもらふ機会を作りたい。</p>	<p>課題となっている「生徒の活動時間の確保」については、指示をより明確化し、シンプルな学習内容を積み重ねていくこと「1授業につき、1達成」の授業展開を組み立て、それを反復一定着という流れを作りたい。また、継続的なグループ学習の進め方を工夫し、生徒が自ら学ぶ活動を展開していく。知覚・感受したことをより音楽的に表現するためにも、音楽の諸要素(音色、音高、旋律など)のキーワードカード等を使用し、文章を構築できるよう工夫していく。日本の伝統音楽や諸外国の音楽の教材研究が深まっていないため、教材の開発を行っていきたい。三学年を通じ系統性のある指導評価計画を検討する。</p>
3年	<p>自らの考えをしっかりと表現できる生徒が増えている。また、自らの考えと他者の考えを比較、分析し、折衷案やそれに替わる考えを創作できるようになった。教えあいや学びあいや等も定着し、自ら率先して学び取るうとする姿が見られる。</p> <p>歌唱活動では、声部の役割と全体の響きの関わりを理解させる事ができた。しかし、それを生かし表現を工夫する力は十分に身に付かなかった。創作活動では、言葉や様々な音階の特徴を生かし、表現を工夫して旋律を作る事ができた。鑑賞活動では、音楽の特徴をその背景となる文化や他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する力が身に付いた。</p>	<p>ワークシートや発問を工夫し、声部の役割と全体の響きのかかわりを理解させることができた。それを生かし表現を工夫する力をグループ学習で身に付けさせたかったが、少し不十分であった。</p> <p>課題としては、曲にふさわしい表現を工夫して表現する力をグループ活動を通じ身に付けさせたい。また、音楽的な基礎能力(無理のない発声、音程)はそれなりの成長が見られるが、音楽的な基礎知識(楽語、音符・休符の読み方)など、読譜に係る学習が少々不足している傾向がある。他の教科(理科や数学)等とも関連付けて、より分かりやすい指導を心がけたい。</p>	<p>課題となっている「楽曲にふさわしい表現の工夫」については、音楽史やその時代背景、生活様式や文化を理解した上での表現が欠かせない為、他教科(社会、国語など)との関連も意識して学習展開を考えていきたい。また、音楽の基礎知識(楽語、音符・休符の読み方)については、毎授業でのフラッシュカードや小テストの実施をすることで定着を図りたい。また、3年間の総まとめとしてだけでなく、高等学校の音楽への学習につながるよう、より発展的な授業を企画していきたい。</p>

美術

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・作業することに積極的な生徒が増えた。 ・絵画室にある参考資料を活用するようになった。 ・テストでの言語活動に積極的になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に作業することが課題。 ・次年度は資料を自分でも探せるような課題に取り組みせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の時間を長くしたり、実演や見本作品を見る機会を多くする。 ・
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・工作のような立体の課題を設けたところ、積極的に取り組むようになった。 ・作品鑑賞したときの記述に積極的に取り組む生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面でも魅力的な課題を用意したい。 ・コンセプトの設定に重点を置き、作業意欲を持たせたい。 ・今後ももっと楽しく課題に取り組めるようにしたい。 ・アイデアは自分で出すというよりも、安直に何かを真似る傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面でも、完成度の高い見本作品をより多く用意したい。 ・何かを真似してしまうのではなく、自分なりに消化して制作できるような課題を用意したい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に作業するようになった。 ・テスト(鑑賞)の課題には積極的に取り組む生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験が終わって気が抜けてしまった生徒も多々いる。 ・3学期のテストでは忘れ物をした人が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトを立てる時間を長くし、イメージスケッチをきちんと描いてから作業に取り組ませる。 ・授業内での持ち物チェックの回数を増やす。

技術

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	木工作品の製作(ペンシルスタンドの製作)では基礎となる木材加工の領域[図学]をキャビネット図・第三角法を習得したことで自身の製作品を構想する上で多くの工夫が見られるようになった。さしがねの使い方・両刃のこぎりの使い方・げんのうでの釘打ち・塗装と各ポイントを絞って指導することで、ノートへの記入での学習ではなく、すぐに使える能力として覚えて、実践する力が身に付いた。	課題である木工作品の制作では道具の基本的な使い方を学ぶとともに、箱作りの難しさを知り、決して簡単ではないことを知る。この製作での失敗を次の木工作品の製作に活かすことができた。また、自由な発想やアイデアを作品に活かすことや、作らなくてはいけないといった感覚では無く、作りたいという意気込みを感じることができた。しかし、進度の差があり、完成した者と未完成の者との時間の溝があった。	くぎしめで表面をフラットにすることの安全配慮やさしがねの直線引きを複数回復習させる必要があった。また、釘は一斉に配布するのではなく、進度をできる限り合わせて、げんのうでの作業に進んだ時期に作業台中央に使用する分だけを小箱に入れて配布をする改善が必要。こういった細かい点も作業の効率を高めることになり、生徒の製作意欲の向上にもつながるので、気をつけていきたい。
2年	電気領域に関しては家庭で点検修理し、実生活にすぐに活かせる実践的なものを選んだことで、生徒の興味関心が強まり、集中した授業が展開できた。また、地球環境やエコの社会的な動きで、新しい電気機器が注目されている。商品だけが流通するのではなくその知識を流布していくことで、家庭での家電の役割や必要性をも認識できるのではないか。	テーブルタップでは圧着端子を使用した接合、電気スタンドでは端子に直接巻きつける接合方法を段階的に学ばせた。初歩から高度な応用知識を習得できた。接合に関心があったものの電気の流れや回路、交流電源について学ぶ時間が少ないため、基本的な配線処理にミスもあった。	電気理論では法則の学習があるが、理科教諭との連携で電気を横断的に学習させることができれば、幅広い形で電気を理解し、興味関心を持って取り組み安全な製作になるのではないかと考える。製作は理論と密接な関係があることの認識を再考したい。また、日常生活に密着した家電製品の仕組みを紹介することで実生活に生かせる授業となるように更に改善したい。
3年	コンピュータ活用ではパソコン検定を実施。タイピング実技テストでは、合格をめざして真剣に取り組むことができた。ダイナモラジオの製作では、ものづくりの大切さを理解し、道具を大切にし、ものづくりの楽しさを知ることができた。	実習の中心と考えていたラジオ製作がメーカーの設計不良によって返却されてしまった。半田実習が中途半端な状態で終了。講義に切り替えての授業組み立ては困難であった。即対応できる準備性が大切。 今の日本の豊かさを生み出した技術大国日本を学び、ものづくりを大切さを学ぶことができた。講義と実技の時間数のバランスは課題。	年々進化していく電化製品に学校での教材もすっかりと考えていく必要がある。今回の授業に関して言えば、手回し式充電器が直流から交流に進化し、今ではソーラー発電機も加わっている。情報基礎学習では授業内容を考察したい。特に情報基礎分野においては機器の進化と情報にかかわる社会問題の両面について常に意識し、研究・情報収集が必要。

家庭

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	衣生活住生活と自立の分野では、家庭実習を長期の休みを利用して行き、洗濯・アイロンかけ・衣類の整理収納の技能を修得できた。また、食生活と自立の分野では家族のために簡単なお弁当を作り、調理に関心を持つようにした。生活に役立つ小物作りではエコバッグの製作をし、まつり縫いの技術を身につけ、ミシンの扱い方を学習した。	家庭実習では保護者のコメント記入の欄を設け、家庭と一緒に生徒を見守り、学習を支援することが出来た。身近にある題材を利用し、家庭での実践を通して技術の習得をさせたいが、各家庭内には個人差があり、親子の交流が不足している家庭ではうまくいかないこともあった。被服実習では個人差が激しく授業進行の調整が難しかった。	自分の将来に役立つ生活技術を身につけられるような具体的な課題を工夫していく。生活に役立つ小物の製作や、部屋の片付け方などの工夫も指導内容に取り入れたい。
2年	食生活と自立の分野では栄養と食事の学習を通し、1日に必要な食事の内容を理解し、献立の作成が出来るようになった。また、和食の調理実習を通して、調理技術の向上と、食文化に関心を持つようになった。	いろいろなメニューの中から健康になるため食事内容を検討させ、自分の食事内容が見直せるように工夫した。連続して調理実習を行い、さらにすぐに復習の家庭実習を取り入れることで調理技術の向上が見られた。	皮むき器などの道具でなく、包丁を正しく使う技術を身につけさせるために3年生の秋にりんごの皮を丸ごとむくテストを取り入れ、1年間かけて家庭で練習させていく。
3年	身近な消費生活と環境、家族・家庭と子供の成長の学習を通し、環境に優しい消費行動のあり方や、悪質商法から身を守る方法、乳幼児の生活や保育の基本的な内容を理解することが出来た。	りんごの皮むきテストでは事前に詳しく評価基準を示すことで練習のポイントが明確になり、技術の習得に役立った。環境や消費生活、子供の成長の授業では具体的な事例を説明することで、内容を深めることが出来た。	授業時間が少ない中で、より実践的で、具体的な体験が出来るような授業内容の工夫を行う。

保健体育

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	1年時では、安全保全の為の授業規律の確立が第一目的となる。1年次の特性の一つである素直な時期に確かな規律を身に付けさせ、目的意識を高めて行く。全体的にはその流れに沿った成長を見せていた。	年度当初の集団行動の授業において徹底することで、その後の各単元の効率的進歩ある授業計画・実践が可能となる。その意味では順調に進むことが出来、個性・能力もそれぞれのものがハッキリとしてきた。課題としては、常に、先の状況を見据えて、見合った指導内容を提供して行くことだと感じている。	大きな改善点は無く、現在の授業形態をより進歩させて行く先見的な目と、それをスムーズに実践して行く緻密な計画が、常に必要となってくる。
2年	学年がスタートしてしばらくは、流れについていけない生徒に流されるのか、あるいはやるべきことに取り組んでいくのか、生徒同士で互いに様子を見ている雰囲気があったが、ほとんどの生徒は良い流れに乗ることができ授業に向き合い、やるべきことに取り組むことができた。	集団行動と授業規律を徹底し、できていなければいつでも、何回でもやり直して身につけさせることで、今取るべき行動は何かを投げ掛けていくことで、徐々に他律から自律に向かってきている時期である。従って、自らを律し、自ら進んで授業に取り組む姿勢を徹底することが課題である。	持ち物や授業準備のさらなる徹底と、自分たちでできることは運動委員を中心に自主的に取り組む姿勢を当たり前にしていくことが必要である。
3年	忘れやサボリなどによる授業不参加は、ほとんどなく、年度当初から積極的に取り組めるようになった。授業全体の流れがスムーズになった。	天候や行事等により、種目によって授業数が厳しくなった部分があるが、計画立てて授業を進めているため、切り詰めたり、厳選することで対応した。生徒の動きもスムーズだったため臨機応変に進められた。	卒業学年のため、記入項目なし。